

山梨県神社庁報

かみばね

祝祭日には国旗を掲げましょう



11月3日 文化の日
11月23日 勤労感謝の日
12月23日 天皇誕生日
1月1日 元日
1月8日 成人の日

第179号（平成29年10月20日）



安産まつり（山中諏訪神社）

平成二十九年度

神社関係者大会次第

第一部 神宮大麻暦頒布始祭（午後一時）

当番 峡北支部

雅楽奏楽 山梨県神道雅楽会

豊栄の舞奉納 山梨県女子神職会

時刻 斎主祭員並参列者着席

次に 修祓

次に 斎主が一拝す（諸員之に倣う）

次に 神饌を供す（此の間奏楽）

次に 斎主祝詞を奏す（此の間諸員磐折）

次に 豊栄の舞奉納

次に 玉串奉奠

次に 神饌を撤す（此の間奏楽）

次に 斎主が一拝す（諸員之に倣う）

次に 神宮大麻並暦授与

次に 各退出

講話 神宮禰宜 島海 芳行 殿

休憩 第二部 神社関係者大会（午後二時）

次に 第

一、 開式の辞

一、 神宮遙拝

一、 国歌斉唱

一、 敬神生活の綱領唱和

一、 物故者の霊に黙祷

一、 庁長式辞

一、 総代会長挨拶

一、 庁務報告

一、 功績表彰

一、 神社庁規程表彰

一、 神社総代会規程表彰

一、 神社本庁規程表彰者伝達

一、 全国神社総代会表彰者伝達

一、 神宮大麻優良表彰者伝達

一、 長寿の祝い記念品贈呈

一、 来賓祝辞

一、 被表彰者謝辞

一、 萬歳奉唱

一、 閉式の辞

午後三時五十分 終了予定



式

辞

庁長 根 津 泰 昇

錦織りなす時節を迎えた今日の佳日に神職、総代を始め県下の氏子、崇敬者各位にご参列賜り、平成二十九年山梨県神社関係者大会を開催致しましたところ、神社本庁統理殿、神宮大宮司殿、神道政治連盟会長殿を始め多数の御来賓のご臨席を賜り厚く御礼申し上げます。

又ご参列賜りました関係者各位には、斯界の為に常日頃ご尽力頂いております事に敬意を表します。

畏くも天皇、皇后両陛下におかせられましては、天機愈々麗しく、日々公務にあたり、精励遊ばされておりますこと、慶賀に堪えないしだいでありませう。

天皇陛下下讓位後は、即位の礼、大嘗祭、後の神宮に親謁の儀等々の慶祝行事が執り行われまが厳肅に肅々と進まれる事を願わねばなりません。

讓位日程は「静かな環境」を選ぶ中で当初の想定から年内決定への前倒しが検討されている事の報道がありました。静かに見守りたいと存じます。

又眞子内親王殿下にあられますのはご婚約も整い慶賀に存じます。

本宗と仰ぎます神宮におかれましては、第六十二回神宮式年遷宮の盛儀、また昨年の伊勢、志摩サミットの開催により、国民の関心も高まり、昨年は八百万人もの方々のご参拝があったとお聞きしております。御同慶の至りに存じます。

又池田厚子祭主様がご退任になり、黒田清子祭主様が御就任遊ばれました。鷹司尚武大宮司様もご退任になり、小松揮世久大宮司様が御就任になられました。次の時代に向けての異動と拝察し、斯界も以前同様、若しくはそれ以上の協力体制を整え、参宮、大麻頒布増体に努める施策を図る必要性を感じております。

昨年は山梨県神社庁七十周年を迎えました。本年は新たな第一歩を踏み出す年でありますので四つの柱を中心に展開したく存じます。

一つめは、不活動神社対策委員会会の充実を図る事です。発足

いたしましたのは四年前であり、迅速な運営を期待しております。又県総代会からは二百六十万円を超える御浄財を拠出頂きまして衷心より感謝申し上げます。

二つめは、過疎地域神社活性化推進委員会設置と活動であります。この施策は全国の神社庁に設置が求められている委員会であり、近年少子高齢化が進み、農山村の過疎化が問題となっており、護持運営が危惧されております。神社が置かれていた現状を認識し、新たな施策を打ち出し、斯界全体で取り組んでゆかねばなりません。祭祀の振興が神社振興の基本であり、祭礼行事の継承、振興、復興により神社及び地域の活性化に結び付けたいと存じます。神社関係者にはご協力賜りたく存じます。

三つめは、神宮大麻頒布向上計画であります。神職、総代、関係者には大変なご尽力賜っており、昨年は感謝申し上げます。昨年は残念ながら千三百体の減体となりました。減体理由としては、都市部への人口集中による若い世代層の意識変化が指摘されております。此の世代層にどのように入り込んでゆくか、の施策が必要かと存じます。関係各位に知恵をお絞り頂き、本年は何とか増体に結び付けたいと存じます。又過疎地域神社

活性化推進対策・教化実践目標を担う為にも神宮大麻頒布は重要な意味を成します。神社庁・支部・各神社・頒布従事者（総代）との連携が不可欠です。お力添え賜りますようお願い致します。

四つめは規則・細則検討委員会において設立七十年を経過した現状では見合わない規則、決まり事が見受けられますので、委員会に付託し審議に入りたいと存じます。

大凡半年間で検討を重ねて参りたいと存じますので、ご理解賜りますようお願い致します。近年は御朱印を受けられる方が多く見受けられ、神社参拝の年齢層も若返っており、少子高齢化の時代にあつて喜ばしい現象であります。

此の時代を捉え美しい日本の文化を取り戻す為にも神社の杜から発信する事が必要不可欠です。神宮大麻頒布活動も日本の文化を支える大切な活動であります。関係各位の活動に期待申し上げます。

最後になりましたが本日表彰の栄に浴されました方々は常日頃神明奉仕に携わっておられる事が認められた訳でございます。衷心よりお祝い申し上げます。と共今後のご活躍、ご健勝を祈念申し上げ式辞と致します。

敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ追の精華を發揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。ここにこの綱領をかかげて向うところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと

一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること



総代会会長挨拶

山梨県神社総代会

会長 中 込 豊 秋

紅葉の季節を迎え、今日の佳き日に、県下各地より、神職、総代、氏子、崇敬者各位のご参集を頂き、平成二十九年山梨県神社関係者大会が盛会に催すことができましたことに、厚くお礼申し上げます。

なお本日ご多用のなか、神宮大宮司殿、神社本庁統理殿、神道政治連盟会長殿始め、国会、県議会、市町村関係者、神社関係団体代表の皆様方、多数の臨席を賜り厚くお礼申し上げます。先生方には神社界に格段のご尽力を頂いておりますことに感謝を申し上げます。

畏くも、天皇、皇后陛下におかれましては、お健やかに日々公務にあたり、精勵遊ばされておりますこと、慶賀に堪えないしだいであります。昨年八月に天皇陛下におかれましては、ご自身より、思いのままを語られて以来、陛下のお気持ちを国民は理解し共感しておるところであります。

政府、国会において検討され、本年六月九日、天皇退位特例法が、参議院本会議に於いて全会一致で可決、成立されました。

秋篠宮家におかれましては、九月三日に長女眞子さまと小室圭さんとの婚約が正式に内定され、結婚は来年秋とのことで慶賀に堪えないしだいであります。

世界の政治情勢は北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長の暴挙に世界中が振り回されており、水素爆弾の実験を繰り返して、小型化を目指し、大陸間弾道ミサイル(ICBM)搭載用水爆実験に、完全に成功した、と発表した。このような経過のなかでも、米国民は、戦場の経験の無い故か、あまり危機感がない、とマスコミは伝えている。省みて日本も平和ボケして居る日本人と他国の人に蔑まされ、少しは目が覚めたでしょうか。

この際憲法を改して、国民の生活を守る、国を守る自国防衛こそ、最も重要であります。

本年は内外多難な年であります。国内に於いては地震、異常気象に依る集中豪雨、予想を超える多量水害に犠牲者、家屋、田畑、流木による橋の被害、根本的な見直し対策が必要であります。十月には衆議院解散による議員の選挙が実施されます。

自民党は公約に「消費税率10%」「憲法改正」特に増税の中で教育面に二兆円超を向けるようですが、正に子育て支援政策は子育て不安解消の良き政策であります。願わくは三人以上の子供には厚く支援するなら人口減少にも歯止めにもなりましよう。各位におかれては日本の将来を良く考えて、託せる政治家を選びましよう。

国旗掲揚推進活動も今年四年になります。掲揚推進の一助としての、ノボリの頒布を継続して参ります。なお掲揚活動の成果としての各支部より掲揚に成功したモデルになりそうな場所を推薦して頂き、成果に対する事例の苦心されたお話を伺う会を催したいと考えております。今後の活動の参考にし、三年後の東京オリンピック、パラリンピックに向けて、日本の象徴である日の丸を、それぞれの家々に掲げる、この運動に更なるご協力をお願いします。

昨年神社庁創立五十周年記念事業の最重要事業である「不活動神社対策事業」に対して県神社総代会として協賛金の募集をして参りましたところ、お陰様で三百万円近くなりました。有難う御座いました。この事業は費用が相当に必要なようであり、更なるご協力をお願い申し上げます。上げ、挨拶とします。

庁 務 報 告

事 業

- 1、神宮大麻奉斎推進
- 2、神宮参宮運動促進
- 3、神殿三大祭斎行
- 4、神宮新穀感謝祭奉賛
- 5、靖國神社公式参拝実現運動実施
- 6、北方領土返還運動継続
- 7、各種研修
 - イ、現任神職研修会
 - ロ、総代研修会
 - ハ、雅楽研修会
 - ニ、関東地区中堅神職研修会
 - ホ、女子神職研修会
 - ヘ、浦安の舞研修会
 - ト、初任神職研修会
- 8、一都七県神社庁連合会諸会議
- 9、国旗掲揚運動推進
- 10、不活動神社対策事業
- 11、過疎化地域神社対策事業
- 12、金品寄付者顕彰
- 13、神政連活動に協力
- 14、神社奉護運動推進
- 15、日本会議活動に協力

16、美しい日本の憲法をつくる
山梨県民の会活動に協力

17、郷土暦編集配布

18、庁報「かひがね」年四回発行

神社本庁統理の承認を申請した神社

申請件数 三十一件
承認件数 二十七件

内 訳
財産処分 九件
建物新改築等 十件
境内地模様替 四件
規則変更 三件
神社合併 一件

神社本庁規程表彰

武田神社宮司 佐々木高仁

住吉神社宮司 志村 幹人

牛倉神社宮司 中村 宗彦

戸藏神社役員 堀内 文藏

神社庁規程表彰

氷川神社宮司 高野 正興

五所大神社宮司 稲葉 和仁
浅間神社総代会長 三井 晴則
小室浅間神社総代 柏木 繁
春日神社総代会長 棚本 佳秀

神宮大麻頒布優良者表彰
優秀支部 甲府支部 峡北支部

特別表彰頒布優良奉仕者

武田神社欄宜 内藤 寛
頒布優良奉仕者(神職)
唐土神社宮司 小田切宣幸

浅間神社権欄宜 藤巻 普紀
浅間神社権欄宜 津金 善美
浅間神社宮司 安田 洋人
富士御室浅間神社権欄宜 濱 将盛

全国神社総代会規程表彰

吉本富士浅間神社役員 神楽 利行
春日神社役員 棚本 佳秀

山梨県神社総代会規程表彰

稲積神社外郭団体会員 松田 裕
稲積神社外郭団体会員 清水 一紀
千塚八幡神社奉賛役員 須藤 巖
千塚八幡神社奉賛役員 小林 秀雄
甲斐北条神社世話人委員 石原 充彦

甲斐北条神社世話人委員 水澤 勇三
神明神社総代会長 若尾 久
鈴宮諏訪神社総代 林 一夫
穴太神社役員 齊藤 栄典
穴太神社役員 矢崎 淳

【新任神職】

八幡神社宮司 野中 武士

穴切天神社責任総代 渡邊 繁男

穴切天神社責任役員 小原 祐造

穴切天神社責任役員 磯部 直孝

穴切天神社責任役員 清水 正幸

五社神社総代長 岡部 仁

日吉神社総代 河西 慶明

八幡神社総代長 齊藤 誠

熊野神社総代長 向山 和孝

玉神社責任役員 萩原 寛

朝霧熊野神社総代会長 鎌田 茂

三社諏訪神社総代 浅川 嘉昭

三社諏訪神社総代 嶋田 章三

武田神社総代 山本 承功

武田神社総代 山本 等

武田神社総代 萩原 幸男

武田神社総代 市川 弘

武田神社総代 小澤 一男

武田神社総代 乙黒 肇

一實神社総代 福島 正幸

文珠神社総代 名取 博

飯田八幡神社総代 長田 政幸

飯田八幡神社総代 佐野 修一

霞ヶ崎神社役員 石原 佑一

三之蔵神社神楽指導者 新藤 武義

三之蔵神社総代長 柴田 光明

【昇任神職】

浅間諏訪神社宮司 今橋 武

浅間諏訪神社宮司 郷田 盛直

【本務替神職】

富士御室浅間神社欄宜 濱 陽一

【帰幽神職】

天神社宮司 佐藤文太郎

浅間神社名譽宮司 古屋 眞孝

浅間神社権欄宜 伊藤 裕久

浅間神社宮司 内藤 吉光

【退職神職】

稲荷神社宮司代務者 源生 真光



庁 務 日 誌 抄

祭 儀 関 係

平成二八年	神政連靖國神社参拝 旅行	三・二九	神社本庁・神社庁・神政連・総代会	二・二・四	中谷真一を囲む会 (アピオ)	二・二・八	神社本庁理事会(神 社本庁)
一〇・一五	山梨縣護國神社例祭 獻幣使参向	四・一五	一〇・一七 一〇・一三 一〇・一四	二・二・八	二・二・一	二・二・一	憲法改正講演会開催 実行委員会(自民党 県連)
一〇・一八	靖國神社秋季例大祭 参列	四・一二	一〇・一八	二・二・一	二・二・一	二・二・一	一都七県神社連合 会(神社本庁)
一〇・二〇	東山梨支部神宮大 麻曆頒布始祭参行	四・二三	一〇・二〇	二・二・一	二・二・一	二・二・一	一都七県神社連合 会(神社本庁)
一〇・二八	東八代支部神宮大 麻曆頒布始祭参行、 峡中支部神宮大 麻曆頒布始祭参行	四・二五	一〇・二二	二・二・一	二・二・一	二・二・一	一都七県神社連合 会(神社本庁)
一〇・三二	甲府支部神宮大 麻曆頒布始祭参行	五・一五	一〇・二五	二・二・一	二・二・一	二・二・一	一都七県神社連合 会(神社本庁)
一一・一	神政連靖國神社 参列	六・一一	一一・一	二・二・一	二・二・一	二・二・一	一都七県神社連合 会(神社本庁)
一一・二	南都留支部神宮大 麻曆頒布始祭参行	七・一一	一一・二	二・二・一	二・二・一	二・二・一	一都七県神社連合 会(神社本庁)
一一・四	峡北支部神宮大 麻曆頒布始祭参行、 北都留支部神宮大 麻曆頒布始祭参行	八・一五	一一・四	二・二・一	二・二・一	二・二・一	一都七県神社連合 会(神社本庁)
一一・一六	山梨縣護國神社 参列	八・一八	一一・一六	二・二・一	二・二・一	二・二・一	一都七県神社連合 会(神社本庁)
一一・一七	神政連靖國神社 参拝	八・二六	一一・一七	二・二・一	二・二・一	二・二・一	一都七県神社連合 会(神社本庁)
一一・二一	神政連靖國神社 参拝	九・一	一一・二一	二・二・一	二・二・一	二・二・一	一都七県神社連合 会(神社本庁)
平成二九年	神政連靖國神社 参拝	九・一四	一二・一	二・二・一	二・二・一	二・二・一	一都七県神社連合 会(神社本庁)
一・一八	神政連靖國神社 参拝	九・一七	一二・一	二・二・一	二・二・一	二・二・一	一都七県神社連合 会(神社本庁)
一・二六	神政連靖國神社 参拝	九・一九	一二・一	二・二・一	二・二・一	二・二・一	一都七県神社連合 会(神社本庁)
二・一	神政連靖國神社 参拝	九・二三	一二・一	二・二・一	二・二・一	二・二・一	一都七県神社連合 会(神社本庁)
二・一四	神政連靖國神社 参拝	九・二三	一二・一	二・二・一	二・二・一	二・二・一	一都七県神社連合 会(神社本庁)
三・一	神政連靖國神社 参拝	九・二三	一二・一	二・二・一	二・二・一	二・二・一	一都七県神社連合 会(神社本庁)
三・一四	神政連靖國神社 参拝	九・二三	一二・一	二・二・一	二・二・一	二・二・一	一都七県神社連合 会(神社本庁)
三・一五	神政連靖國神社 参拝	九・二三	一二・一	二・二・一	二・二・一	二・二・一	一都七県神社連合 会(神社本庁)

三・一四	三・一六	三・一八	三・二二	三・二三	三・二四	三・二九	三・三〇	三・三一	四・三	四・五	四・一〇	四・一三	四・一四	四・一七	四・一八	四・一九	四・二〇
社本庁、庁長懇話会(明治記念館)	社本庁長会(社本庁)	皇室普及委員会(社本庁)	国旗掲揚推進委員会(社本庁)	嶺南・嶺中・嶺北支部祭式研修会(社本庁)	役員会(社本庁)	一都七県事務担当者会(熱海)	靖国神社参拝・恵比寿ガーデンブレイスの旅(一八二名)、美しい日本の憲法をつくる国民の会(衆議院会館)、美しい日本の憲法をつくる国民の会中央大会(憲政記念館)	国旗掲揚推進委員会(社本庁)	庁報委員会(社本庁)	憲法改正講演会開催実行委員会(自民党県連)	神道公演全国協議会打合せ(東郷記念館)	庁報委員会(社本庁)	憲法改正を学ぶ講演会(コラニー文化ホール)	全国神社総代会幹部研修会(三重県)	全国神社総代会大会旅行打合せ(社本庁)	社本庁理事會(社本庁)	社本庁評議員一都七県の会(明治記念館)、番町政策研究
所(パレスホテル東京)	役員会(社本庁)	打田文博氏の神道政治連盟会長就任を祝う会並びに神政連山梨県本部懇親会(甲府富士屋ホテル)	嶺南支部神社総代会総会(三珠総合福祉センター)	社本庁システム運用管理検討部会(社本庁)	埼玉県神社庁庁舎竣工祝賀会(埼玉)	全国神社総代会大会旅行打合せ(社本庁)	甲府支部祭式研修会(社本庁)	教化委員会(社本庁)	国旗掲揚推進委員会(山梨市民会館)、庁報委員会(社本庁)	東八代支部合同総会(浅間神社)	社本庁評議員会他諸会議	清和政策研究所(ブランドプリンスホテル)	役員会(社本庁)、表彰委員会(社本庁)、初任講師会(社本庁)	神奈川県神社庁庁舎竣工祝賀会(神奈川)	南都留・北都留支部祭式研修会(生倉神社)	嶺北支部神社総代会通常総会(魚光会館)	北方領土返還請求運動山梨県民会議常任
六・五	五・二七	五・七	五・九	五・九	五・九	五・二	五・二	五・二	五・一五	五・一六	五・一八	五・一八	五・一八	五・一八	五・一八	五・一八	五・一八
理事會(ベルクラシック)、北方領土返還請求運動山梨県民會議理事會(ベルクラシック)	土返還請求運動山梨県民會議總會(ベルクラシック)	憲法改正を学ぶ講演會慰勞會(ホテル談露館)	神宮評議員會(伊勢神宮)	教化委員會事業部會本部長・事務局長連絡會(社本庁)	神道政治連盟國會議員懇談會合同懇談會(ニユーオータニ)	事務担当者研修會(社本庁)	神道政治連盟中央委員會會(社本庁)	女子神職祭式研修會(社本庁)	過疎化地域神社活性化推進施策説明會(社本庁)	システム運用管理檢討部會(社本庁)	神本庁システム運用管理檢討部會(社本庁)	神本庁檢定(社本庁)	長崎池田市長特級昇進祝賀會(長崎)	役員會(社本庁)、予算委員會(社本庁)、身分選考委員會(社本庁)	嶺中神社總代会支部總會(櫛形生涯学習センター)	八・二三	八・二三
六・二六	六・二七	六・二八	六・二九	六・三〇	六・三一	六・三二	六・三三	六・三四	六・三五	六・三六	六・三七	六・三八	六・三九	六・四〇	六・四一	六・四二	六・四三
教化委員會(社本庁)	庁報委員會(社本庁)	一都七県神社連合會第五十五回中堅神職研修會(乙)(明治神宮)	庁報委員會(社本庁)	甲府支部神職・總代・神社関係者合同總會、研修會(ベルクラシック)	視察成研修會(瑞牆山)	過疎化地域神社活性化推進委員會(社本庁)	社本庁理事會(社本庁)	緑陰子供會(長塚神社)	神政連盟本部三役會(社本庁)	北都留神社總代会定期總會(大月市民會館、国旗掲揚推進委員會講演(笠原神社、国旗掲揚推進委員會(社本庁)	山梨県神社總代会監査(社本庁)	連山梨県本部(監査、嶺北支部通常總會(魚光會館)	社本庁監査(社本庁)	親子参宮團(伊勢神宮)	一都七県教化担当者役員會(社本庁、山梨県神社協議員會(社本庁)	神政連山梨県本部代議員會(社本庁、山梨県神社總代会評	
八・二三	八・二五	八・二五	八・二五	八・二五	八・二五	八・二五	八・二五	八・二五	八・二五	八・二五	八・二五	八・二五	八・二五	八・二五	八・二五	八・二五	八・二五
議員會(社本庁)、神政連自民黨県連打合せ(自民黨県連)	神本庁システム運用管理検討部會(社本庁)	東山梨支部定例總會(山梨市民會館、社本庁臨時理事會(社本庁)	雅樂研修會(社本庁)	全國神社總代会役員會(埼玉)	全國神社總代会大会(埼玉)	平成二十九年度神社祭式講師研究會(社本庁)	社本庁理事會(社本庁)	神宮大膳屋頒布秋季推進會議(神宮會館)	伊勢神宮崇敬會地方本部事務局長會(神宮會館、神宮會館)	社本庁長懇話會(神宮會館)	神本庁長會(神宮會館)	国旗掲揚推進委員會(社本庁)	役員會(社本庁)、表彰委員會(社本庁)	表、過疎化地域神社活性化推進委員會(社本庁)	不活動神社対策委員會(社本庁)	問・参入會(ホテル談露館)	神本庁システム運用管理検討部會(社本庁、庁報委員會(社本庁)

山梨県神社庁経常費歳入歳出決算 自 平成28年 7 月 1 日 至 平成29年 6 月30日				山梨県神社庁経常費歳入歳出予算 自 平成29年 7 月 1 日 至 平成30年 6 月30日			
歳 入 の 部							
款項	科 目	28年度決算額	本年度予算額				
神社本庁幣帛料		384,000	380,000	通 信 運 搬 費	632,385		800,000
負 担 金		22,719,800	22,706,800	賄 費	13,070		50,000
本 庁 協 賛 金		620,000	620,000	旅 費	1,692,672		2,000,000
神 社 負 担 金		11,361,800	11,359,800	交 際 費	1,025,140		1,200,000
神 職 負 担 金		8,408,000	8,397,000	慶 弔 費	235,598		250,000
特別神社寄贈金		1,930,000	1,930,000	雑 費	29,219		100,000
神宮奉賛活動推進費		400,000	400,000	車両維持管理費	862,470		1,100,000
交 付 金		49,129,600	48,900,000	事 業 費	8,674,283		9,405,000
神宮神徳宣揚費		48,200,000	47,700,000	教 化 関 係 費	986,694		1,000,000
神社本庁交付金		929,600	1,200,000	教 化 委 員 会 費	2,677,877		2,500,000
財 産 収 入		13,398	14,000	地 方 研 修 所 費	398,468		900,000
神 殿 奉 納 金		10,000	10,000	講 習 会 助 成 費	8,260		50,000
財 産 利 子		2,621	2,000	庁 報 発 行 費	1,084,320		1,200,000
預 金 利 子		777	2,000	郷 土 暦 調 整 費	1,053,864		1,100,000
諸 収 入		5,288,568	4,450,932	神宮奉賛活動推進費	400,000		400,000
郷土暦頒布費		2,110,350	2,000,000	指定団体補助金	1,220,000		1,220,000
手数料並授与料		1,364,000	800,000	神社本庁協賛金	465,000		465,000
雑 収 入		684,218	550,932	表 彰 費	114,829		150,000
特 別 納 付 金		1,130,000	1,100,000	神 社 調 査 費	164,971		300,000
当 初 運 営 金		6,000,000	6,000,000	諸 祭 寄 贈 金	100,000		120,000
繰 越 金		9,466,279	8,548,268	一都七県当番県助成金	0		
歳 入 合 計		93,001,645	91,000,000	神社本庁負担金	4,564,350		4,600,000
歳 出 の 部				大 麻 暦 頒 布 費	975,750		1,000,000
款項	科 目	28年度決算額	本年度予算額	頒 布 始 祭 費	80,000		80,000
幣 帛 料		430,000	450,000	郷土暦頒布交付金	633,105		700,000
神宮神徳宣揚費		30,986,048	30,910,000	荷 造 発 送 費	24,645		50,000
本庁特別納付金		9,656,048	9,700,000	雑 費	238,000		170,000
支 部 交 付 金		21,330,000	21,210,000	派 遣 費	1,077,122		1,460,000
会 議 費		4,096,590	4,400,000	評 議 員 派 遣 費	233,400		300,000
役 員 会 費		1,682,007	1,900,000	一都七県連合会派遣費	702,230		900,000
委 員 会 費		94,295	200,000	神宮奉仕員派遣費	10,000		10,000
関係者大会費		1,900,000	1,600,000	事務担当者派遣費	131,492		250,000
参 与 会 費		420,288	700,000	会 館 運 営 費	667,957		1,100,000
給料及諸給与		16,613,189	17,170,360	神 殿 費	167,629		200,000
給 給 手 当		8,834,400	8,923,200	借 地 費	200,000		200,000
諸 給 与		2,162,960	2,200,960	営 繕 費	27,000		300,000
賞 与		3,312,900	3,346,200	管 理 費	185,328		300,000
備 人 料		0	100,000	諸 費	88,000		100,000
社会保険・厚生年金		2,256,489	2,500,000	資 金 財 産 造 成 費	2,520,000		3,020,000
福 利 厚 生 費		46,440	100,000	基 本 財 産 造 成 費	10,000		10,000
庁 費		6,648,088	8,250,000	予 備 資 金 積 立 金	10,000		10,000
備 品 費		750,273	900,000	職 員 退 職 金 積 立 金	1,000,000		1,500,000
文 房 具 費		26,319	50,000	会館維持資金積立金	500,000		500,000
図 書 印 刷 費		146,039	200,000	神宮式年遷宮積立金	1,000,000		1,000,000
消 耗 品 費		356,430	500,000	分 担 金	400,000		1,100,000
光 熱 水 費		878,473	1,100,000	運 営 資 金 積 立 金	800,000		800,000
				次 年 度 当 初 運 営 金	6,000,000		6,000,000
				予 備 費	0		1,334,640
				歳 出 合 計	84,453,377		91,000,000

山梨県神社庁総代会経常費歳入歳出決算				自	平成28年 7 月 1 日	至	平成29年 6 月30日	
山梨県神社庁総代会経常費歳入歳出予算				自	平成29年 7 月 1 日	至	平成30年 6 月30日	
歳 入 の 部						消 耗 品 費	4,456	10,000
款 項	科 目	28 年度決算額	本年度予算額			旅 費	78,950	300,000
諸 収 入	負担金	3,059,125	3,022,276			手 当	120,000	120,000
	協賛金	1,554,100	1,553,850			慶 弔 費	77,832	80,000
	寄付金	1,443,000	1,443,000			役 員 会 費	33,560	100,000
	雑付金	0	5,000			雑 費	28,360	50,000
	雑収金	62,025	20,426			全国神社総代会代議員派遣費	95,520	150,000
	前年度繰越金	3,002,990	2,677,724			負担金	173,900	173,900
	歳入合計	6,062,115	5,700,000			負 事 業 費	2,657,214	4,400,000
歳 出 の 部						神 社 振 興 対 策 費	242,944	1,400,000
款 項	科 目	28 年度決算額	本年度予算額			講 演 会 費	0	100,000
諸 支 出	備品費	453,277	860,000			功 績 者 表 彰 費	39,270	100,000
	文房具費	596	5,000			研 修 費	475,000	700,000
	図書印刷費	5,784	10,000			全 国 総 代 会 積 立 金	300,000	300,000
	通信運搬費	0	5,000			総 会 費	1,600,000	1,800,000
		8,219	30,000			予 備 資 金 積 立 金 費	100,000	100,000
						予 備 費	0	166,100
						歳 出 合 計	3,384,391	5,700,000

神政連山梨県本部歳入歳出決算 自 平成28年 7 月 1 日 至 平成29年 6 月 30 日 神政連山梨県本部歳入歳出予算 自 平成29年 7 月 1 日 至 平成30年 6 月 30 日				歳 出 の 部			
款 項	科 目	28 年度決算額	本年度予算額	款 項	科 目	28 年度決算額	本年度予算額
会 費		1,875,000	1,900,000	経 常 費		247,922	250,000
特 別 協 賛 金		356,000	359,000	人 件 費		150,000	150,000
法 人 寄 付		1,369,076	1,125,000	備 品 消 耗 費		20,000	20,000
個 人 寄 付		1,475,672	1,500,000	政 治 活 動 費		77,922	80,000
雑 収 入		31	4,288	組 織 活 動 費		4,782,521	4,555,000
当初運営資金繰入金			50,000	組 織 研 究 費		1,545,717	1,545,000
前 年 度 繰 越 金		116,376	161,712	調 査 金 交 付 費		185,000	200,000
歳 入 合 計		5,192,155	5,100,000	寄 付 金 交 付 費		1,953,900	1,985,000
				研 修 積 立 金		733,604	650,000
				都 七 県 積 立 金		100,000	
				一 運 営 資 金 積 立 金		50,000	
				都 七 県 他 の 経 費		91,500	110,000
				運 営 基 金 積 立 金		122,800	65,000
				一 運 営 基 金 積 立 金			150,000
				当 初 運 営 資 金 繰 出 金			100,000
				予 備 費		0	50,000
				歳 出 合 計		5,030,443	5,100,000

金品寄付者に対して感謝状贈呈

神社庁長

◆東山梨支部

諏訪神社 関口澄則、奥山正光、町田幹人、雨宮盛也、中村寿美子、有賀充、村田保、高橋弘

若松神社

天野経廣

◆峡南支部

八幡神社 海野利彦

浅間神社

望月藤一、佐野幸弘

◆峡中支部

若宮神社 小林一臣、中込正純

若宮神社

齊藤竹利

◆峡北支部

武田八幡宮 石原佑一

御名方神社

清水謙雄、今溝照男

◆南都留支部

富士御室浅間神社 大石良範

浅間神社

本庄利久、羽田政三、中田昇、長谷川智、第九組、第十組

白山神社

外川幸一

小篠神社

相川猛、(株)中村製作所、滝口幸男、加賀公英、堀口一成、齊藤八郎、高橋璋、

齊藤知治、杉本光司、中野久渡、渡辺良二、山本美正、小野武彦、中野忠雄、佐藤竹男、菊地清、堀口昭雄、渡辺猛、桐原芳彦、菊地敏彦、高橋徹、中野嘉一、中野為雄、天野珪、渡辺豊治、杉田美司、高山昭彦、渡辺敏博、齊藤博忠、水庭次男、斎藤愛夫、長谷時利、渡辺正、堀口校、渡辺一由、山下明、小林常春、高部貞夫、中野久男、渡辺定夫、羽田義和、小俣実、高橋保次、佐藤勝、中野宗夫、杉本哲男

八王子神社・簡口神社 参氏会、辰巳会

生出神社 水野義昭

訂正

一七八号十一項「第二十三回神青協一都七県協議会総会報告」の記事中「山梨県神道青年会事業部長 小佐野 正宗」とあるのは誤りで、正しくは「山梨県神道青年会事業部長 小佐野 正崇」でした。お詫びして訂正致します。

神宮大麻暦頒布始祭

東八代支部 副支部長 植 松 真 芳

平成二十九年度の神宮大麻暦頒布始祭が九月十七日午前十時、神宮内宮神楽殿にて斎行されました。台風十八号が接近する天候でしたが、日曜日という事もあり伊勢の地は参拝者が多く、境内は賑わっていました。前日には恒例のご招宴が開かれ、小松大宮司様よりご挨拶を賜り、乾杯後はご参集の皆様と親しく懇親を深め、盛大な宴となりました。

十七日当日は時折激しい雨が降る中でしたが、外宮・内宮を参拝し、その後神楽殿に於いて頒布始祭に参列。各県神社庁長に神宮大麻が頒たれ、引き続きお神楽の奉奏（此の大々神楽は神社本庁が奉納）、神宮会館に移動し直会・昼食を摂り、その後大講堂にて平成二十九年度神宮大麻暦頒布表彰式・秋季推進会議を開催いたしました。表彰式では特別表彰頒布優良奉仕者三十六名の名前が読み上げられ、山梨県では武田神社欄宜内藤寛氏が表彰されており、推進会議では前年度の頒布結

果が報告され、今後の対策等を評議しますがここ数年減体しており、今回は前年比で約三万体の減体となりました。地方では人口の減少、都市部では逆に増えているが神棚祭祀に無関心である、マンション住人にはセキュリティの厳重化により、住人と接触出来ず頒布活動事態が難しいと現状報告された。亦各地の人口の増減については行政のHPで確認が可能であり、本務及び兼務神社の氏子世帯数の再度確認を行って頂きたいと説明がありました。

推進会議座長よりは「神宮大麻頒布は、昔も今もそして未来も変わる事がない 我々神職の永遠のテーマであり、終わりのないもの。」と述べられました。昨今、世間は御朱印ブームで神社仏閣に関心を持つ人が多く見られます。神明奉仕する者として神社祭祀と家庭祭祀について改めて考え、再度正しく理解し、参詣者に更なる崇敬心をもって貰えるよう接して参りたいと思います。

全国神社総代会大会に参加して

北都留支部総代会 会長 棚 本 佳 秀

第五十三回全国神社総代会大会が九月六日、埼玉県ソニックスティホール大ホールに、全国から二千六百余名の神社総代会が出席し、開催されました。本県総代会ではバス三台に分乗し、百五十名が大会会場に向かいましました。

大会は午後一時より清興の関東の神楽の源流とされる、「土師一流催馬楽神楽」から始まり、続いての記念講演は講師に落語家林家たい平師匠による「笑顔のもとに笑顔が集まる」の演題で行われました。落語と云うものは、言葉によって人の心をデザインするものである。デザインは人を幸せにするためである。又師匠が子供の頃の神社は、暮らしの中に神様が密着し誰もが親しみを持ち、子供達も遊べるような神社であった等、皆の笑いをさそいながら、心に残る講演でした。

その後式典に入り、開会の辞を、地元埼玉県総代会の大野光政副会長が行い、神宮遥拝、国歌斉唱に続き、主催者代表の三村会長の代わりに、国分副会長

が式辞を述べました。続いて神社功労者の表彰があり、本県は富士吉田北口本宮富士浅間神社役員、神楽利行氏と大月春日神社役員、棚本佳秀の二名が受賞しました。次に来賓の神社本庁北白川道久総理、神宮小松揮世久大宮司を始め、神道政治連盟打田文博会長、両参議院議員山谷えり子・有村治子、そして埼玉県上田清司知事が、それぞれ来賓祝辞を述べられ、来賓の紹介、祝電の披露が行われました。次に受賞者を代表して、埼玉県総代会大野隆司氏が謝辞を行いました。次に平成二十九年度事業計画報告、大会宣言、次期大会開催地は熊本県で、九月二十六日予定との発表があり、開催地を代表して三角総代会会長が、被災地の熊本県が開催地を受けることは非常に難しいが、万難を排して受け入れるとの言葉があり印象的でありました。そして聖寿万歳奉唱、閉会の辞で盛会のうちに大会が終了しました。

私共は日帰りのコースでありましたので、一泊のコースの方達と別れて、帰路につきました。

第三十五回神社本庁

神道教学研究大会講師報告

武田神社 権禰宜

乙 黒 洋

去る九月五日に「人霊祭祀、顕彰と継承と」を主題として、第三十五回神社本庁神道教学研究大会が、神社本庁大講堂で開催され、神職、教学顧問・教学委員・研修委員、各神職養成機関の教職員、神社庁研修所講師など約九十人が参加した。

同大会では第三十三回、第三十四回と続けて「人霊祭祀」を主題に掲げ、古代から近代までの人霊祭祀を検証しその思想的展開に焦点を当ててきた。今大会では過去二回の成果を踏まえ、改めて近代に視点を戻し、偉人顕彰とその祭祀に注目することで、我が国の「人霊祭祀」の伝統、「人を祀る」という信仰的営みを再確認し、教学的な位置づけを明らかにすることを趣旨としており、その偉人顕彰の代表的事例の一つとして、大正八年に創建された、郷土の英雄武田信玄公を奉祀する武田神社の創建を、事例報告として講演してほしいとの要請が、神社

本庁より私に下命があり、登壇の運びとなった。

午前九時三十分の開会し、佐賀県・龍造寺八幡宮禰宜の江頭慶宣氏、國學院大學教授の藤田大誠氏、國大准教授の宮本誉士氏がそれぞれ発題を行い、福岡県・篠山神社宮司の山田茂人氏、神社本庁総合研究部研究祭務課長の浅山雅司氏と、私が事例報告を述べ、引き続き、國學院大學教授阪本是丸氏と皇學館大学教授の松本丘氏をコメントーターに加え、発題者・報告者を交えて共同討議を行った。

今回の講師を務めることにより、改めて武田神社創建に至るまでの紆余曲折、先人たちの一方ならぬ労苦と赤誠等々を見つめ直すのに、またとない好機となったのは云うまでもない。平成三十一年の武田神社御鎮座百年に向け、今まで以上に各種事業などに取り組まなければならぬとの思いを新たにしたい次第である。

日本会議山梨県総会

美しい日本の憲法をつくる山梨県民の会総会
キャラバン隊からの提言報告

去る八月十日、山梨県神社庁二階に於いて「日本会議山梨県本部総会」が開催されました。県内神職総代をはじめ日本会議会員約五十名が参加されました。

神殿拝礼、国歌斉唱、日本会議綱領唱和、前原 会長挨拶に続き、御来賓である山梨県神社庁の根津泰昇庁長、山梨県神社総代会の中込豊秋会長、自民党山梨県連会長のご名代として自民党山梨県連幹事長の臼井成夫山梨県議会議員、堀内詔子衆議院議員、向山憲稔甲府市議會議員より夫々ご挨拶を頂戴した後

に、事務局より平成二十八年度事業報告と会計報告、平成二十九年度事業計画（案）と会計予算（案）の説明があり、特に意義もなく原案通り可決されました。その後、日本会議「日本女性性の会」の荒木榮子事務局長より日本女性の会の活動内容や全国各都道府県における設立状況の説明があり、山梨県に於いて

も設立へ向けた活動提言がなされました。

質疑応答の後、憲法改正啓発DVDを鑑賞した後、「美しい日本の憲法をつくる国民の会キャラバン隊」から現況報告や今後の活動についての提言がなされ、聖寿万歳の後に閉会となりました。



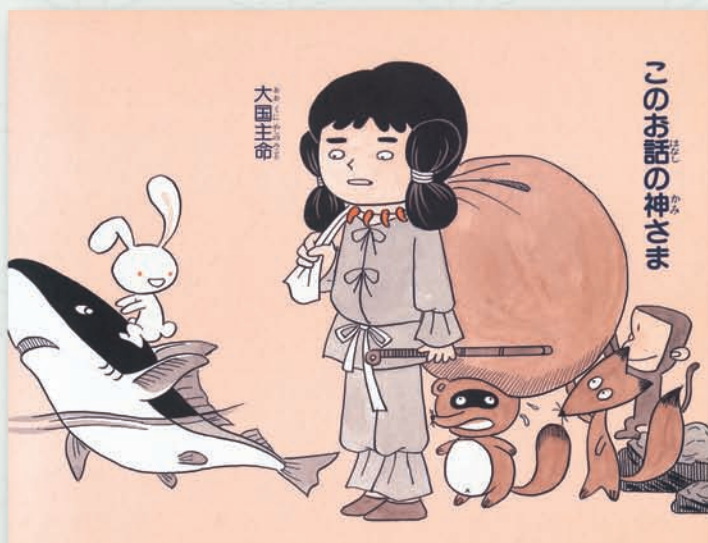
まんが古事記

いなばのしろうさぎ (第一話)



お子さん、お孫さんと、

神話の世界をお楽しみ下さい。



「全国神社保育団体連合会」提供

問い合わせ 東京都渋谷区代々木二―一―二

神社本庁内

電話 〇三―三三三九―八〇一―

一冊 一二〇円

あらすじ

おやにぬしのみこと
大國主命には沢山の兄弟がいっぱいいました。命はある時、お兄さんたちのお供で旅に出ました。すると、海岸で赤裸になつたうさぎが泣いていました。そこで、命がやさしく声をおかけになると、うさぎはその訳を話しました。

そのうさぎは、海に向こう側に住んでいましたが、いつもこちら側に来てみたいと思っていました。でも海は広くてとてもうさぎには泳いで渡ることが出来ません。そこでうさぎは一計を案じ、海に住むワニに声をかけるのでした。

※昔はサメ類をワニと呼んでいました。







(一八〇号 第二話へ続く)

一都七県神社庁教化担当者会

教化委員長 中 村 宗 彦

去る八月十日、さいたま新都心・ホテルブリランテ武蔵野に於いて、恒例の一都七県神社庁教化担当者会が開催された。

会議では、先ず神社本庁教化広報部教化課長心得北島一孝氏より

- ・神社本庁の教化施策の概要
- ・今期（平成二十九年度～三十一年度）の教化実践目標
- ・過疎地域神社活性化推進施策について

・平成二十九年五月定例評議員会提出議案について

・全国神社総代会について

等、神社本庁の教化活動の詳細な説明がなされ、各都県にあってはこれらを念頭に積極的な教化活動の展開が求められた。

第二に、当番の埼玉県より一都七県神社庁教化共同企画の廃止について提案がなされた。この教化共同企画は、一都七県という広域内において様々な教化広報を差異無く行うことで、財政的にも効果の面でも成果を上げまた各都県の教化の格差解消

緑陰子供会

教化委員会 事業部長

上 條 昭 宏

も狙って過去十六年に亘って行われてきたが、当番が各都県を二巡してある一定の意義・効果が得られたこと、今は各都県が

去る九月二十三日、午後三時、今年の緑陰子供会は、去る七月二十三日（日）峡中支部の長塚神社（花形豊宮司）で開催されました。当日は時折小雨の降る曇り空の下でしたが、当社の総代さん達が全面的に応援して下さい、境内にテントを張ったりテーブル・胡床の設営、片付け等々スムーズな運営が出来ました。また当日の昼食（カレーライス）は総代さんの奥様達が総て用意して頂きました。ご協力に感謝しております。

子供達も約四十人それぞれ水筒など持参してきましたが、天候に恵まれあまり暑くなく、熱中症の心配もしないで楽しい一

それぞれの実情に合わせた活動を充実させた方がより有意義であるという意見があり、庁長会に廃止を上申することが了承された。

最後に各都県の教化活動の状況報告を行って本年の教化担当者会を修了した。

日を過ごせたと思います。

神道青年会のメンバー主導によるゲーム、雅楽鑑賞、行灯作り、火鑽りの実演などの行事に参加することによって、はじまつたばかりの夏休みの一日を想い出深いものと出来たのではないでしょうか。

この行事に参加することで子供達が神社に親しみを持つてくれることが出来、彼等が大人になって氏神様を大切に守ってくれることを期待しています。

長塚神社総代長

五 味 武 彦

甲斐市長塚地区は戦後約八十世帯でしたが、現在はアパートやマンション含めると約千二百五十世帯に激増しましたが、氏子数は年々微増してはいますが現在約三百四十世帯でまだまだ増加の可能性が大いにあります。



氏子以外の皆様にも長塚神社をより理解していただく方法を模索していましたが、神社庁で緑陰子供会の企画を知り、今回の開催となりました。

当日は神社庁から沢山のスタッフの努力により、ゲームや雅楽の演奏、行灯づくりなど中身の濃いイベントとなりました。参加した地区の小学生三十名も大いに興味を持ち、楽し

い夏の一日を過ごすことができ、思い出を作ることができました。

こどもたちが神や神話、神社など日本の心を未来に引き継いでくれると確信した日でもありました。神社庁の方々と宮司に感謝いたします。ありがとうございます。

今後例大祭ばかりでなく、地域に根ざした神社として色々な企画を立て、所期の目標である氏子増につなげばと願っています。

りよくいんさい

敷島南小一年

よ だ はると

なつやすみに、ちかくのながつかじんじゃでりよくいんこどもかいがありました。たくさんのおにいさんにあそびをおしえてもらったりじんじゃのおまいるのしかたをおしえてもらいました。ががくというおんがくをきかせてもらったときに、がっきがいっぱいあってびっくりしました。あんまりきいたことのないきよくでしたが、きれいなおとだとおもいました。

おひるごはんには、つくってもらったカレーをたべました。いただきますやごちそうさまにだいじないみがあるということ

もしりました。みんなでたべたカレーはとてもおいしかったです。あんどんづくりは、むずかしかったけど、さいごにはうまくできました。ひきりは、おにいさんがあせをかいいていっしょうけんめいに火をおこしていました。火をつけることはたいへんだなあとおもいました。

いちにちいろんなことをおしえてもらったのしかったです。じんじゃはとてもたいせつなばしよなんだとおもいました。またじんじゃにおまいるをしたいです。

楽しかった子ども会

敷島南小四年

中 込 琴

緑陰子ども会に弟と参加しました。神社にお参りやお祭りで行った事がありました。一日過ごす事は初めてだったので、とてもドキドキしました。

始めに神社の参拝の仕方を教わりました。その次はゲームをしました。じゃんけんやはないちもんめをしてみんなでもり上がって楽しかったです。

行灯作りは、組み合わせて形にするのが難しかったけれど、絵に色をぬって貼ったりして自分だけの行灯が出来てうれしかったです。

雅楽の演奏はお祭りの時にきく音で、特に笛の音がとてもいい音でした。

昼食のカレーは一生けん命早くから作ってくれておいしくてうれしかったです。

最後のくじ引きでは一番が当たってびっくりしました。

神社で一日過ごして感じた事は、お参りやお祭りじゃなくてもみんなが集まって楽しめる場所なんだなと思いました。

また神社で楽しめる子ども会があったら参加したいです。

親子参宮団

富士山小御嶽神社権禰宣

佐々木 浩 文

今度、八月七日八日、山梨県神社庁教化委員会主催による親子参宮団に参加し家族で伊勢の地へ参りました。今回は神職子弟の御家族様と初めての旅行でしたので期待と不安でしたが、旅行の間に次第に打ち解けて大変親睦が出来たことに一安心でした。又今回台風五号の最接近と重なり、変更につぐ変更に伴い内宮御神楽奉納と御垣内参拝のみとなりましたが、あの物凄い風雨の強い中での参拝、始めは私の子供を始め怖い思いをしたようでしたが、手水を使い第

一鳥居から子供達は不思議なことに静かに整列参進し、御神楽も騒ぐことなく素直に祓いを受け、御垣内参拝も全員参拝できたことは、子供達はこの神域で自然と共に大神様の「在る」という本当の感性が心に入ってきたのかと畏きことと感じたところです。一日目と裏腹に台風一過の二日目は本田技研鈴鹿製作所を見学し、その中でホンダウツズの杜も見学、自然と人間との共存の大切さを教わりました。今回は子供にとって本当の神と自然の共和そして畏敬という心を育まれた貴重な体験だったと感じております。これもこのような機会を頂きました教化委員会様に対し厚く感謝を申し上げ、我が家も更なる神明の心で日々過ごして参りたいと思うところでございます。

初めての伊勢神宮

山下 歌 菜

今年の夏休み一番楽しみにしていたことは、伊勢神宮に行くことでした。でも当日は、台風がきてしまつて心配でした。台風が動く方向に私たちも行くのでいっしょに動いてるかんじがしました。伊勢神宮に着くと大雨なので、カップをきて行きま

した。うじばしのかかっている川は雨で水の量がとても、増えていてびっくりました。そのあと、さんばいをしました。そこは、ふつうの人がおまいりできない所に入っておまいりできてとても良かったと思いました。伊勢神宮には、神社にあるはずのこま犬やしめなわが無いと言う話やごしんぼくをシロバイのせんだうで、はこぶことなどいろいろな話を聞き勉強になりました。

そのあとは、私が一番楽しんだつみこさんのおどりを見ました。私は、バレエをやっているの、手や足の動きをすごくきいて見ていましたが、とてもきれいで、じょうずだと思いました。

雨で夜のさんばいができなかったことが、とても残念でした。帰りは、とてもいいお天気で、きれいなじゅうのじを見ることもできて、うれしかったです。

伊勢神宮への旅

大 柴 愛 加

私は伊勢神宮参拝、一泊二日の旅行に行きました。一日目は台風で雨と風がすごくて内宮の参拝で終わってしまいました。外宮の参拝が出来なかった事が

ざん念でした。でもそこで教えてもらった事は、一つ、神社の入り口にある鳥居の前でおじぎをする事、二つ、手水舎で手を洗って心と体を清める事、三つ、神さまの前で正しいじゅんじょでおまいりする事、「二回おじぎ」「二回手をたたく」「一回おじぎする」「二拝・二拍手・一拝」でした。いっしょに来ていたおじさんが「伊勢神宮には百回位参拝に来ているがこんな雨の日は初めてだ」と言っていました。私は「そうなんだ」と思いました。二日目の朝食は最高においしかった。自動車工場の見学の時森の中のさんざくをしました。木で作られた置き物や池の中にメダカがいました。「車は一日に百五十台作られる」と聞いて、ビックリしました。みんなのおみやげ選びになんだけれど、とても楽しい旅行でした。みなさん、ありがとうございました。

おやこさんぐうだんにさんかして

吉田小学校一年

ささき まりか

八月七日、おとうさんのおしごとのひとたちといせじんぐうへいきました。わたしは、いままでに三かいきています。もりのなかにたくさんのかみさまが

いて、やさしくわらっているばしょとかんじていました。でもこんかいはちがいました。

ちようどたいふうがきていたときで、バスをおりたらあめたおかぜがつよくて、わたしがもっていたかさはひっくりかえってしまいました。まわりをみるときがゆれていて、いつもよりくらくてこわかったです。なみだがでそうだったけど、がんばって、おとうさんのあとについていきました。かぐらでんでみこさんのまいをみました。とてもきれいでした。あかいはかまがすてきで、きてみたいなおもいでした。

おまいりがおわつてとまるばしょについたら、いっしょにりようにきていたおにいさんやおねえさんと、ともだちになりました。ねるじかんまでたくさんあそびました。つぎのひもあそんで、とてもたのしかったです。いつかまたみんなにあいたいです。

かえりみち、やまなしにかえつてくるととてもおおきなにじがでていました。うれしかったです。このりようは、たくさんぬれてたいへんだったけど、ともだちもできていいおもいになりました。



神社庁顧問・参与会

新参与として

十五所神社 宮司

篠原敬逸

九月二十八日午後三時三十分よりホテル談露館において、神社庁顧問・参与会が開催され新たに私を含め六名の神職が新参として職を拝命した。議題が順次進み、山梨県副知事の棚木環先生をお招きして「過疎化地域の諸問題について」という題目にてご講演をいただいた。顧みれば、平成四年十二月に亡父の先代宮司の進逸大人命が病に倒れ障害者となり志半ばに神職を退いた。先代が病になった当時の私は新宿の某ホテルにて接客業をしていた。そのホテルで共に働いていた先輩に、接客業とは何かという事を一から全て教わった。一番の教えは「お客様が何を求めているのか、何を欲しているのかを予測し、出しやばらずに手助けをする事」この言葉を信念に接客した。また、強烈に頭に残る助言は「私達は何十、何百と接客をするが、お客様にとっては一生に一回の出来事だ、その機会に接するのだからいつも新鮮な心を持つことだ」と言われたことである。こ

の二つの教え、言葉を胸に秘め神職として奉仕を始めて二十年が過ぎた。奉仕を始めたころは行く先々で「随分若い神主さんだねえ」大丈夫かい？」と叱咤激励を頂いたものである。

私は接客業の教えを請うた先輩の「お客様にとっては一生涯に一回の事」の言葉を如何に祭典、御祈禱に反映させ、皆の心の印象に残るかを今も考え、社頭講話をしている。人にはそれぞれ人生経験や考えがあり十人十色である。そこにどれだけ寄り添えるかが宿命だと思っている。私の力は微々たるもので、氏子崇敬者の皆様のお力添えになるかは分からない。しかし神の導きとご先祖の血筋が今の私を支えていると感じている。

参与任命を受けて

朝氣熊野神社
禰宜

渡邊千紗

神職でありました亡き祖母の勧めにより神職の道を志し、階位を拝受したのが平成五年七月、同年朝氣熊野神社禰宜に就任し、二十四年が経ちました。本年一月の神職身分二級昇級に続き、九月二十八日の山梨県神社庁顧問参与会第一部例会に於いて、新参与として任命され、改めて身の引き締まる思いでお

ります。

第二部では過疎化地域の諸問題と題し、山梨県副知事 柵木環先生を講師にお招きし、山梨県における人口減少と対策について、詳細なデータに基づいた、興味深いご講演を頂きました。

第三部懇親会の開宴のお言葉の中で、根津庁長先生ご自身が初めて参与として出席された際の思い出話をご披露して下さり、拝聴しながら、誰にでも「初め」があるのだと再認識いたしました。

本務神社禰宜就任以来、大神様のお導きの下、神明奉仕一筋に励んで参りました。母を始め、親族多数が神職である環境は、神仕えの心得をいつ何時でも学べる状況にあり、大変恵まれておりました。神社界の大先輩方、とりわけ神道青年会と女子神職会の諸先輩方には、様々なご指導を頂き、時には厳しく、また時には楽しく、多方面に亘り、鍛えて頂きましたこと、この場をお借りして、心より厚く御礼申し上げます。

中堅神職となつた今、斯界を担う人材となるよう、心新たに決意した次第です。引き続き、先輩方からのご指導・鞭撻を賜り、次世代を教え導く神職となりますよう、努力を怠らず邁進して参ります。

不活動神社対策協賛金

平成二十九年七月一日から平成二十九年九月三十日まで、に四名の皆様より五萬貳千円の御協賛を戴きました。
厚く御礼申し上げます。

厚く御礼申し上げます。

甲府支部
卸協賛者
一名

御協賛金 貳萬円也

甲府市 住吉 住吉

御協賛者 一名

御芳名

峡中支部

御協賛金 貳萬円也

甲斐市 篠原 八幡

御協賛者 二名

御芳名	御役費金
	九千円也

武川町
柳澤
天神

平成二十九年九月三

皆様より貳百六拾四萬
ました。

厚く御礼申し上げま

甲府支部
御協賛社
一三六名

御協賛金 八拾萬七

御協賛社 四四名
御協賛金 壹拾八萬

東八代支部
御協賛社
一〇九名

御協賛金 四拾六萬
夾南支那

御協賛社 五二名

峽中支部

御協賛金 四拾九萬

御協賛社 一三名

南都留支部

御協賛金 参拾参萬

御協賛社 三六名

從快資金 電掛四直

平成二十九年九月三十日までに五九一名の皆様より貳百六拾四萬八千円の御協賛を戴きました。
厚く御礼申し上げます。

第十七回神社関係者 囲碁大会報告

山梨県教育関係神職協議会
事務局長 小佐野 文 男

第十七回を迎える〃山梨県神社関係者囲碁大会〃は様々な県内団体の協力と支援を頂き開催されている。資金的には県下別表六社（浅間神社・武田神社・護国神社・北口本宮富士浅間神社・小室浅間神社・富士御室浅間神社）及び福根装束店からの協賛金を頂いている。後援団体にお願ひしている山梨日日新聞社・山梨放送からは、縦二十五センチメートル×横十八・五センチメートル（B五版大）のガラス製の楯を各部門五基頂いているが、この楯が子供達の垂涎の的となっている。また、碁盤は日本棋院山梨より借用している。

八月八日（火）、午前九時、囲碁大会は先ず高野会長先導の元、神殿に向かつての拝礼から始まる。お年寄りも子供達も神殿前で拝礼する中に、一体感と共にお互い大会での健闘を誓い合う。

大会式典において、先ず主催者である根津泰昇神社庁長から

「藤井聡太四段が将棋の対局において連勝を重ねるなど頑張っているが、囲碁の部でも大活躍する青少年が山梨のこの中から育つて欲しい。また大神さまをお祀りするこの神社庁の神殿で高齢の方々も歳を感じさせることなく楽しい一日を過ごして欲しい」との挨拶を頂いた。この後、対局に入り、一般参加者：各神社から十チームがAクラス・Bクラスに分かれ、青少年の部は保育園児から小中学生二十二名は個人戦にて対戦は進んでいた。

戦い終えて、閉会式の講評では青沼審判長から、「他で開催される大会でもいえる事だが、一般の方の参加が年々少なくなってきたように感じている。囲碁の愛好者はまだまだ県内にいられると思うので、揮つてのご参加をお願いしたい所です。また、青少年は此の神社庁の囲碁大会が励みになり、第六回渡辺和代キッズカップ囲碁大会では、この大会でも有段者の部に出場している渡辺拓斗君が五位、周嘉音くんが十二位と入賞することが出来た。」とのお話しがあった。

台風五号の到来で開催も心配されたが、進路がそれたお陰で

開催できた第十七回の大会であったが、来年も元気な姿で参加しようと誓いあって会を終了した。

第十七回、一般の部入賞チームと青少年の部入賞者を紹介する。

一般の部（Aクラス）

優勝 山梨岡神社（山梨市）
準優勝 古宮太神社（甲州市勝沼町）
第三位 氷川神社（甲州市勝沼町）

一般の部（Bクラス）

優勝 美和神社（笛吹市御坂町）
準優勝 初狩八幡神社（大月市初狩町）
第三位 諏訪大神社（甲州市塩山）

青少年の部（有段者）

優勝 古賀 敦大（三島の村中）
準優勝 福田 大和（甲府北西中）
第三位 渡辺 拓斗（山梨大学付属小）

青少年の部（上級者）

優勝 岡部 想（山梨大学付属小）
準優勝 三浦 朝陽（山梨大学付属小）
第三位 大柴 美麗（山梨大学付属小）

青少年の部（初心者）

優勝 渡辺 馨（貢川小）
準優勝 岡部 有（梨大付属幼稚園）
第三位 鎌田 沙和（甘利小）



甲府刑務所にて

秋季慰霊祭斎行

山梨県神職保護司会
事務局長 石 原 鎮

秋分近い九月九日、甲府刑務所秋季慰霊祭が斎行された。刑務所内講堂舞台上に祭場を設け、教誨師・神職保護司会員奉仕の下、眼光鋭い刑務官、墨絵纏の受刑者八十余名の眼に晒されつつ、刑務所関係物故者二百四十柱に、根津会長より慰霊祭詞が厳肅に手向けられた。

今年は甲州相撲甚句会によって神賑行事が披露された。平成八年に日本相撲協会の会長・福田永昌氏の呼びかけで会が発足されたという。甚句は三名による五七調の囃子歌。手拍子と、



どすこい、ほい、あゝどすこいどすこいといった合いの手を入れる。今回は作家、水木亮氏作詞によるテーマ甚句（水木氏も当日参列）。受刑者が長い間逢うことができない家族や、恋人を思う気持ちを歌ったものであった。

今後も各宗派団体が春、秋持ち回りで慰霊を行って行く。現世で法を犯したものの、いかなる悪人でも御霊となれば懇ろに弔い、安らかれと祈ることは我が国の美風である。秋空の下、墨色の衆徒たちに「御霊の祭り」がどう映っただろうか。罪や死、生きること、今は亡き親、帰順を願う家族のことが心によぎっただろうか。更生を願いつつも、保護され齢に近き一保護司の感想である。

神青協夏期セミナー報告

山梨県神道青年会
事務局長 金子雄紀

神青協では、八月三十・三十一日の両日に「『日本の心を紡ぎ伝える』私たちの使命」と題した夏季セミナーを神社本庁で開催し、本県より遠藤会長、小佐野理事、私の三名が参加した。彬子女王殿下が特別講演されたほか、山田蒼元宮内庁掌典次長と藤本頼生國學院大學准教授が、宮中祭祀や皇室制度についてそれぞれ講演された。

彬子女王殿下には「感謝の心をつなぐ」とのお題で講演され、生活のなかに存在しない文化は過去の遺物になってしまう、とのお考えから、生きた日本文化



を子供たちに伝えようと心游舎の活動を始めたこと。その御活動を通じて「子供達にこそ本物の体感」との思いを強く持たれ、今後も日本文化を大切にしていける心を繋ぐための種を撒く活動を続けてゆきたいとの思いを述べられた。

第一講の山田蒼先生は「『宮中祭祀』その概要と変遷」と題し、宮中三殿の賢所に御鏡が奉斎されるに至った経緯と、その変遷。また、現在の神社祭式と宮中祭祀との関係について講演された。第二講の藤本頼生先生は、「皇室制度と歴史」現行皇室典範の課題から」と題し講演され、現在の典範は天皇の権能が大幅に制限され、関連する法整備も不十分であることを指摘し、近い将来、天皇陛下、上皇陛下、皇嗣殿下が存在される状況についての課題を挙げ、皇室の伝統と本質を考える上で、この国の未来のあり方が問われていと述べられた。

昨年八月、天皇陛下は「象徴としてのお務め」についてビデオメッセージで国民に広くお気持ちを述べられた。常に国民の安寧と幸せを祈られ、全身全霊を以て、象徴天皇のお努めを果たされている陛下の「お気持ち」を拝し、お言葉に込められた大御心に副い奉るために、私たち青年神職は何をなすべきか、時宜を得た研修であった。

女子神職会会務報告

山梨県女子神職会

会長 津 金 八千代

常に大神様のお見守りの中、大勢の方々のお支えを戴き当会の事業が行われます事に感謝申し上げます。

新年度を迎えた七月十一日神社庁での総会に於いて、昨年度事業、会計、監査報告が承認され、新年度事業計画、予算案が可決された。又当会設立三十周年記念事業については、平成三十年三月に奉告祭、式典、講演、祝賀会等を執り行う事が可決され詳細は今後検討して行く事となった。

七月十三日神社本庁に於いて、(当会より三名参加)全国女子神職協議会教養研修会が開催された。翌十四日神社庁に於いて代議員会が行われ、昨年度事業、決算、監査報告がされ、本年度事業計画、予算案が承認された。又熊本、島根の両県女子神職会に災害見舞金五万円の送金、各ブロック、単位会での研修会、記念事業等が報告され散会となった。

去る九月二十五日役員会に於いて、十月二十四日山梨県神社関係者大会での「豊栄の舞」奉奏が承認され、十月三日自由稽古、十月十八日神社庁に於いて「豊栄の舞」研修会を行った。

今後とも神社界の為に、女子神職として何が出来るかを会員等と知恵を出し合い実行して参る所存でございます。

山梨県女子神職会

会員 須 田 順 子

当日は、講義一として「観光立国を目指す中にある神社信仰」と題して株式会社小西美術工芸社代表取締役デビット・アントキンソン先生の外国人の観点からのお話をお聞きしました。

日本へ訪れる外国人観光客は、神社仏閣に興味があります。が、固い説明を聞くよりは、日本人と交流したり、実際に神輿を担いだりと肌で感じさせることが大切との内容でした。

講義二は、小笠原流弓馬術礼法三十一世宗家小笠原清忠氏夫人の小笠原純子先生による「日本のしきたり」と題しお聞きしました。

小笠原流礼法とは、後醍醐天皇の時代に武家の礼法を取り入れたものだそうです。礼法とは正しい姿勢の自覚・環境や相手に対する自分の位置を常に考える事。私達女子神職にとっても品格を大切に、女性らしい振る舞いでの作法が大事だと改めて感じました。

数年後には、日本に於いてオリンピックが開催されます。多

くの外国人の方々が社頭にお見えになる機会が増えてきます。「おもてなし」の心で、伝統ある日本の良さを伝えていけたらと思います。



敬神婦人連合会総会

全国大会静岡大会に参加して

山梨県敬神婦人連合会

会長 古 屋 真紀子

六十八回全国敬神婦人大会静岡大会が九月二十六日に静岡市文化会館にて開催され、全国各地から会員一五〇〇人が集いました。本県からは三五名が日帰りで参加しました。総会開催前に、駿河の国の国府が置かれていた駿府城を見学し、駿府は徳川家康と深い関わりがあり、この地で重要な時期を過ごしました。將軍職を退いたあと駿府に

戻り駿府城を拡張、修築し町割りや安倍川の治水を行い、現在の静岡市街地の原型が造られたそうです。東御門や紅葉山庭園などを散策し、お抹茶を頂きました。東御門は寛永十二年に消失し寛永十五年に再建され現在の建物は寛永の再建時の姿を伝統的な木造工法によって復元したと説明をうけました。天候にも恵まれて、ゆったりとした時間を過ごしました。昼食後に会場に入りました。

「DAIDOUGEI」のパフォーマンスショウの清興の後、北白川慶子会長の式辞に始まり、議事として「地方団体との交流」「社会福祉活動として駿河療養所内駿河神社例祭、多磨全生園内永代神社例祭の参列」「国旗小旗について」「國學院大學、皇學館大学の女子学生への奨学金給付について」の会務報告がありました。平成二十八年度会計報告、平成二十九年予算案、活動方針、事業計画案の説明があり満場一致で決定されました。記念講演では徳川家の子孫で徳川記念財団理事長の徳川恒孝氏の「家康公の愛した駿府」を拝聴しました。家康公は戦国から平和へ大転換し江戸時代は二百五十年間の間戦の無い平和な時代を築き、インフラ整備、大衆文化の発達、高度な工業農業の技術の発達、教育水準も高めた。江戸時代は歴史

雅楽研修会報告

山梨県神道雅楽会 会員

中 村 譲

九月四日・五日の二日間にわたり山梨県神社庁研究所主催第九回雅楽研修会が同庁にて開催されました。山梨県神道雅楽会、また穴切雅楽会の会員等二十四名の受講生の参加のもと、普段の雅楽会よりお世話になっています、龍笛の上明彦先生をはじめ、筆簾の池邊五郎先生、鳳笙の渡辺光彦先生の三人の講師をお迎えし研修会は行われました。

初日は開校式の後、管別の研修を行いました。私は持ち管が筆簾なので渡邊先生のご指導を仰ぎました。今研修会の課題

で学んだ以上に熟成した素晴らしい時代だと感じました。大会に参加して様々な活動を通して氏神様への奉仕、神社神道の正しい理解につとめていく事の大切さや若い世代に敬神婦人会を広めていく必要性を痛感しました。

来年は神奈川県の開催になります。今年と同様に多くの方に参加して頂ける様にお声かけをしていきたいと思います。来年もよろしくお願いいたします。

曲として「納曾利破」「納曾利急」「其駒」とありました。まず先生は曲に取り掛かる前に、筆簾の受講生七名に音出しを行わせ、それぞれの音の癖や問題点を指導していただきました。私は音の出し始めが弱く、音を安定させるのに時間がかかっていました。そこで渡邊先生は筆簾を口の中に押し込む力と、逆に口に力を込め筆簾を押し返す力のバランスを調整することで音を安定させる方法を指導して戴きました。また、課題曲の指導になりました。二日目も初日同様管別の研修から始まりまして、午後三時半からは全ての管が集まり合奏となりました。ここで初めて他の管との合流になりましたが、どの管も充実した研修を行っていたことが見てとれました。実際の合奏では受講生それぞれが二日間の練習の成果を発揮することが出来たと思います。二日間にはわたり懇切丁寧に指導して下さいました三人の講師に心よりの感謝を申し上げ、充実した研修会となりました。

祭典を斎行して

すすきまつり

北口本宮富士浅間神社

宮司 上文司

厚

恒例により過日八月二十六日・二十七日両日に亘り「吉田の火祭り」として人口に膾炙されている鎮火祭が斎行された。「すすきまつり」というのは、二十七日の祭りの中で、参詣者が薄の玉串を持って神輿に従う風習から付けられた俗称である。二十六日の松明焚き上げを核とする祭りを宵祭り、神輿渡御を中心とする二十七日を本祭りとして位置付ける見方もある。前夜から御旅所に奉安されていた明神型神輿と富士山型神輿の二基の神輿が、二十七日午後二時より渡御され、交通規制が敷かれた氏子中の公道約一二キロを渡り本社に還御し、大詰めは境内の「高天原」と呼称される域をぐるぐると廻り渡御を終える。今年は祭日が日曜日と重なったため、例年を大きく上回る人出で賑わい、外国人も目立つて多かった。大変な群衆の中での斎行であったが、聊かの事

故もなく終了し兎に角安堵した。神輿の担ぎ手は、嘗てはかなり不足し苦慮した時期があったと聞くが、昨今は熱い気迫の若集が挙って寄せてきてくれている。この祭りに類ない魅力を感じてこそだと思う。その魅力は、往古より基本の祭りの形を必死に維持してきた多くの人たちの力による賜物である。火祭りの重要無形民俗文化財指定や、富士山世界文化遺産登録等の朗報が続いたことも然りである。と、当社最大の祭祀を終えて思いを新たにしたい。



諏訪神社例大祭を斎行して

山中諏訪神社

宮司 坂本 任邦

当神社の主祭神豊玉姬命はご
承知のとおり、神武天皇の父君
鸕鷀草葺不合尊御出産の際の故
事に倣い、古来より子宝、安産
の神様として尊崇されてきまし
た。特に本神社の例大祭が「安
産まつり」として全国的にも認
知されておりますことは、靈驗
灼然が顕著であるに他ならず、
唯々御神慮、御神徳の賜として
只管感謝のみであります。

九月一日、湖畔対岸の明神山頂の奥宮にて神霊の御降臨を願う奥宮祭から始まり、四、五日の神輿渡御、そして六日の後日祭の奉納相撲で祭典を畢えます。この間、稚児行列、子供神輿、女子中学生の踊り、行進、青年団の奉納相撲他、当番の五十人の神輿奉仕者、更に忌服者以外の全戸が半分に分かれ、二日の清掃及び飾り付け等の準備、七日後片付け清掃と、文字通り氏子総参加の祭典となっております。

この祭典は誰もが参加できま
すが、氏子には忌服と云う厳し



い禁忌があり父母の一年間から四親等の従兄弟、姉妹の七日と定められており該当者は祭りへの参加はおろか見る事も叶わず神輿渡御の旧他所へ行く慣わしとなつています。この為七、八年に一度廻つて来る神輿奉仕はこの上なく芽出たく喜びでもあり、その熱氣と真心が崇敬者（特に女性）にも伝わり自然と奉侍する様は、神様の意志、成せる業に他なりません。私共はあくまで「中執り持ち」祭りを如何に盛り上げ氏子崇敬者に御神徳がもたらされますよう願うのみであります。

祭典日程

11 ・ 24	富士吉田市松尾神社新嘗祭 葦崎市若宮八幡宮新嘗祭	11 ・ 23	11 ・ 22	11 ・ 19	11 ・ 16	11 ・ 3	10 ・ 25	10 ・ 22	10 ・ 21
祭									
身延町帯金八幡大神社秋季大祭 南アルプス市上今諏訪諏訪神社例大祭 南アルプス市巨摩八幡宮秋季例大祭 南アルプス市吉田豊郷総鎮守諏訪神社新嘗祭 弓削神社例大祭 八代町永井天神社秋季例大祭 富士川町青柳諏訪神社秋季例大祭 大嶽山那賀郡神社新紅葉祭 市川三郷町高田一宮浅間神社例大祭									
甲府市愛宕神社例祭 下吉田小室浅間神社室宮恵比寿例祭(二十日) 甲府市高畑元宮住吉神社秋季例大祭 南アルプス市高尾穂見神社例大祭(二十三日) 甲府市宮前八幡神社新嘗祭 玉諸神社新嘗祭・神宮大麻頒布始祭 弓削神社新嘗祭 大月市七保町下和田春日神社新嘗祭 酒折宮新嘗祭 甲府恵比寿神社例大祭 甲州市勝沼古宮太神社秋季例大祭 身延町帯金八幡大神社新穀感謝祭 南アルプス市上今諏訪諏訪神社新嘗祭 新倉富士浅間神社新嘗祭 富士吉田市上暮地神明社新嘗祭 大月市駒橋三嶋神社新嘗祭 北杜市高根町建部神社新嘗祭									
1 ・ 17	1 ・ 15	1 ・ 14	1 ・ 13	1 ・ 3	12 ・ 30	12 ・ 31	12 ・ 25	12 ・ 3	11 ・ 28
北杜市大泉町逸見神社新嘗祭 御岳町金櫻神社鎮火祭 北杜市白州町若宮八幡神社大祓 南アルプス市百々諏訪神社大祓式 甲府市宮前八幡神社大祓 玉諸神社大祓 甲斐市西八幡八幡大神社大祓 北杜市大泉町逸見神社大祓年越祭 北杜市高根町建部神社大祓 大嶽山那賀郡神社元旦祭 市川三郷町宮原浅間神社歳旦祭 山梨市西大石神社歳旦祭 富士川町青柳町諏訪神社新年例祭 葦崎市藤井町福地八幡神社歳旦祭 葦崎市穴山町諏訪神社歳旦祭 高根町長沢船形神社歳旦祭 長坂町長坂上条徳見諏訪十五所神社歳旦祭 大泉町谷戸逸見神社歳旦祭 北杜市小淵沢北野天神社元旦祭 富士河口湖町船津八王子神社歳旦祭 富士河口湖町船津筒口神社歳旦祭 大月市初狩町下初狩八幡神社元旦祭 高根町箕輪建部神社歳旦祭 大月市駒橋三嶋神社元旦祭 一宮町中尾中尾神社中尾神社道祖神祭(十四日) 下吉田小室浅間神社筒粥神事 長坂町長坂上条徳見諏訪十五所神社筒粥占い神事(十五日)									
都留市朝日馬場石船神社初祭 富士吉田市新屋山神社正月祭									

今後の予定

「子供の自由画コンクール展示会」

国旗掲揚推進委員会では、本年度山梨市の保育園・幼稚園の年長組を対象とした絵画コンクールを行い、その応募作品と、社団法人国旗協会の開催している「国旗のある自由画コンクール」の平成二十七・二十六年度金賞受賞作品を併せて展示いたします。

記

場 所 山梨市民会館（山梨市万力1830）

日 時 平成29年11月1日（水）～5日（日）

「神殿新嘗祭」

初穂を供え、今年一年の収穫の感謝と喜びを神々に奉告する「新嘗祭」恒例による神事を下記により斎行致しますのでご参列下さい。

記

1、日 時 平成29年11月20日(月)
午後1時30分

2、場 所 山梨県神社庁神殿



「新穀感謝祭」

我が国の御親神、心のふるさとと仰ぐ「お伊勢様」。その限りない御神恩に感謝の真心を捧げ、「瑞穂の国」と称えられた我が国柄への思いを新たにす新穀感謝祭は、本年で六十三回を数えることとなりました。

本年も多くの皆様のご参列を得て、奉賛の喜びを共に致したく存じます。

記

1、日 時 平成29年11月16日・17日
(一泊二日)

2、神宮では御垣内にて特別参拝、神楽殿での御神楽の奉奏が執り行われ、参拝記念が撤下されます。

3、宿泊ホテル、行程、参加費は支部によって異なります。支部役員・神社宮司にお尋ね下さい。



「神宮初まいり」

毎年恒例となりました神宮初まいりの旅を下記の日程で行います。今回は、神宮参拝後、雄琴温泉に宿泊し、京都市内の神社参拝を予定しております。

多数の皆様にご参加いただきますようご案内申し上げます。

記

日 時 平成30年1月29日(月)～31日(水)
(二泊三日)

参加費 48,000円

行 程

- 一日目 両正宮参拝
→戸田家泊
- 二日目 京都 蛤御門京都御所散策
→松尾大社正式参拝
→琵琶湖グランドホテル京近江泊
- 三日目 琵琶湖畔散策
→多賀大社正式参拝
→山梨各地（17時30分頃）